

第197回ギャラリー展



第197回ギャラリー展 暑い・・・風刺画 ドーミエ 展

今まで経験したことのないような猛暑の8月は過去の大戦を振り返るにふさわしい日々なのではないでしょうか。

68回目の終戦記念日に全国戦没者追悼式がありました。例年の首相の式辞とは違い物議を醸し出す発言といわれています。その意味するところは、その目的は、これからの日本の進路を示す言葉かもしれません。

197回ギャラリー展はオノレ・ドーミエ（1808—1879）の風刺画9点を展示します。

ドーミエはフランスの画家、版画家。石版画の技法を習得し、その作品が『カリカチュール』誌に注目され、同誌の風刺漫画家として雇われます。辛辣な政治風刺画が官憲の忌諱に触れ、投獄の憂き目をみますが彼の名は一躍高まり、数々の名作を世に送り出すこととなります。

その後、出版の自由を制限する法律により廃刊に追い込まれますがそれでもめげることなく政治風刺から社会風刺に転じます。

皮肉なユーモアでブルジョアジーを嘲笑したり、慈悲にも似た優しさでつつましい庶民をひやかしたり、の作品群を生み出します。

後にナポレオンが権力を掌握すると、彼の政治活動は再度中止のやむなきに至ります。その後、晩年は盲目同然となり、生活も苦しくなりますが友情に厚いコローから住居を提供してもらい、79年、生涯を閉じます。

ドーミエは鋭い観察と高い精神性によって写実主義の先駆的地位を占め、ドガやロートレックら近代の画家に大きな影響を与えました。

今回の風刺画は複製素描の作品ですが特徴が良く現れており暑いこの時期に一服の清涼剤となることでしょう。お楽しみください。

第197回ギャラリー展

暑い・・・風刺画

ドーミエ 展

平成25年8月19日～9月20日